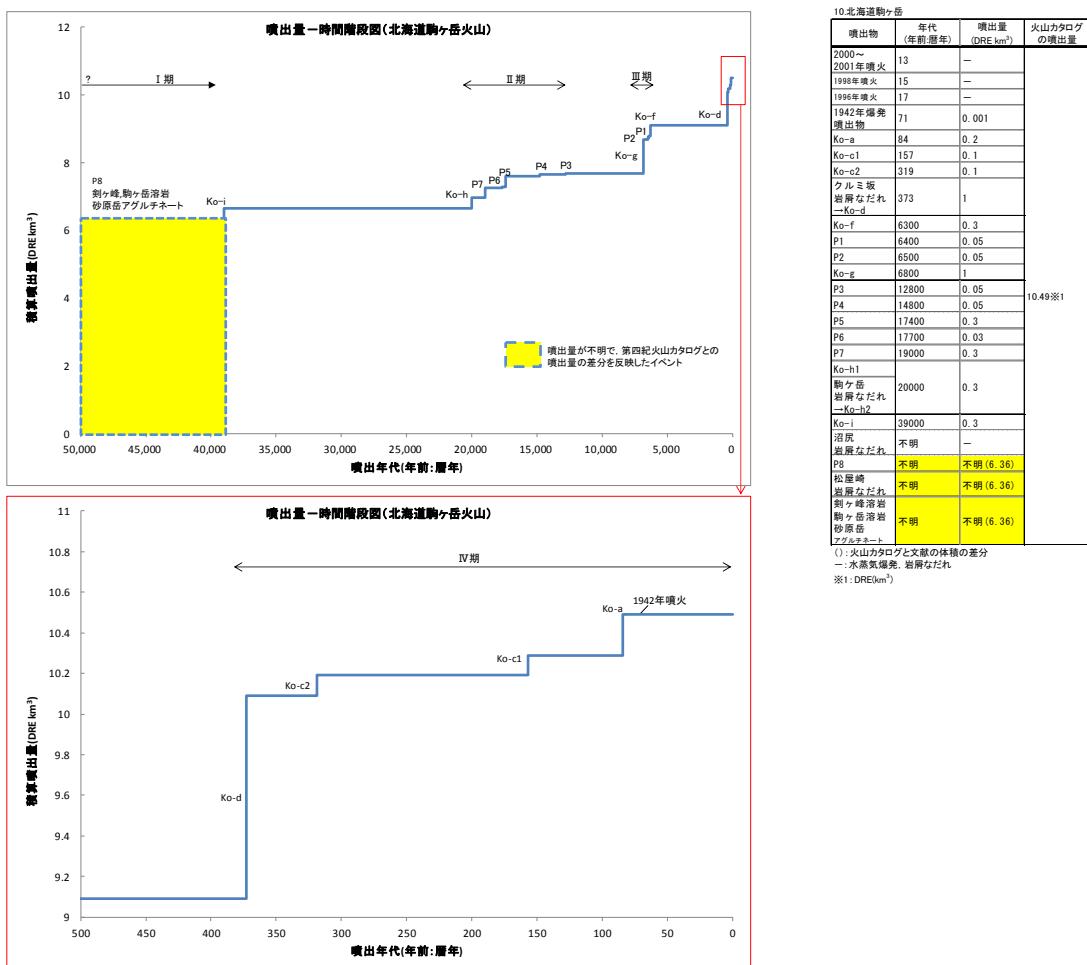


10. 北海道駒ヶ岳火山



第 10-1 図 噴出量一時間階段図（北海道駒ヶ岳火山）

第10-1表 データセット（北海道駒ヶ岳火山）

名前 ⁽³⁾	種類	年代	文獻			採用年代値 ⁽³⁾	噴出量			採用噴出量 (DRE) ⁽⁴⁾ [m³]	積算噴出量 (DRE) ⁽⁴⁾ [m³]
			細則	信頼度	年代(年前/現年) ⁽³⁾		体積(m³)	細則	信頼度		
2000年噴火 →2001年噴火	水蒸気爆発 降下火砕物	AD2000	古文書解析、層序	◎ AD2000	13	—	—	—	—	—	—
1995年噴火	水蒸気爆発 降下火砕物	AD1998	古文書解析、層序	◎ AD1998	15	—	—	—	—	—	—
1995年噴火	水蒸気爆発 降下火砕物	AD1996	古文書解析、層序	◎ AD1996	17	—	—	—	—	—	—
1942年噴発 →1942年噴発	サード 噴出物	AD1942	古文書解析、層序	◎ AD1942	71	0.001 ⁽⁴⁾	引用	△	0.001	0.001	10.491
Ko-a	降下軽石、 火砕流	AD1929	古文書解析、層序	◎ AD1929	84	0.2 ⁽⁴⁾	引用	△	0.2	0.2	10.49
Ko-c1	降下軽石、 火砕流	AD1856	古文書解析、層序	◎ AD1856	157	0.1 ⁽⁴⁾	引用	△	0.1	0.1	10.29
Ko-c2	降下軽石、 火砕流	AD1694	古文書解析、層序	◎ AD1694	319	0.1 ⁽⁴⁾	引用	△	0.1	0.1	10.19
クルミ坂 岩屑なだれ	岩屑なだれ 降下軽石、 火砕流	AD1640	古文書解析、層序	◎ AD1640	373	1 ⁽⁴⁾	引用 根拠未記載	△	1	1	10.09
Ko-f	降下軽石、 火砕流	6300±550calBP	¹⁴ C年代	◎ 6.3cal ka	6300	>0.3 ⁽⁴⁾ 0.15	分布面積、層厚の比較 分水嶺面積・層厚から算出(海上)	○ △	>0.3	0.3	9.09
P1	火砕流	5.740±120BP 5.640±120BP 6300-6500calBP	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代(P2との重複範囲)	△ 6.5~6.3cal ka	6400	<0.05 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	<0.05	0.05	8.79
P2	火砕流	5.440±120BP 5.470±110BP 6300-6500calBP	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代(P1との重複範囲)	△ 6.5~6.3cal ka	6500	<0.05 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	<0.05	0.05	8.74
Ko-g	降下軽石、 火砕流	6.370±110BP 6800-7000calBP 6800-7000calBP	¹⁴ C年代	◎ 6.8cal ka	6800	>1 ⁽⁴⁾ 2-4	引用、草川法 (火砕流考慮、陸上)	○ ○	>1	1	8.69
P3	火砕流	10.960±210BP 12.8calka	¹⁴ C年代	◎ 12.8cal ka	12,800	<0.05 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	<0.05	0.05	7.69
P4	火砕流	12.5~13ka	堆積速度外挿	● 14.8cal ka	14,800	<0.05 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	<0.05	0.05	7.64
P5	降下火砕物	12.8calka	¹⁴ C年代	◎ 17.4cal ka	17,400	>0.3 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	>0.3	0.3	7.59
P6	降下火砕物	14.860±70BP 14.820±60BP 17.7calka	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C内挿	◎ 17.7cal ka	17,700	<0.03 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	<0.03	0.03	7.29
P7	降下火砕物	14.450±170BP以前 19calka	¹⁴ C年代	◎ 19cal ka	19,000	>0.3 ⁽⁴⁾	分布面積、層厚の比較	○	>0.3	0.3	7.26
Ko-h1	降下軽石、 火砕流	17.030±270BP 20calka	¹⁴ C年代 引用('C')	◎ 20cal ka	20,000	>0.3 ⁽⁴⁾ 0.8	分布面積、層厚の比較 分水嶺面積比較、海上分 と水没面積考慮 分水嶺面積と層厚から算出 (陸上)	○ △	>0.3	0.3	6.96
Ko-i	降下軽石、 火砕流	33.660±470BP 39calka	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代	◎ 39cal ka	39,000	>0.3 ⁽⁴⁾ >1	引用、層厚の比較 層厚の比較	○ △	>0.3	0.3	6.66
沼尻 岩屑なだれ	岩屑なだれ	不明	—	—	—	不明	—	—	—	—	—
P8	降下火砕物	不明	—	—	—	不明	—	×	(6.357に一括)	—	—
松原嶺 岩屑なだれ	岩屑なだれ	不明	—	—	—	不明	—	×	(6.357に一括)	—	—
駒ヶ岳 溶岩流 溶岩流 降下火砕物	駒ヶ岳溶岩 溶岩流 降下火砕物	不明	—	—	—	不明	—	×	6.357 ⁽⁷⁾	6.36	6.36

^(注1):名前については、より新しい知見に基づく^(注2):測定誤差の小さいものと選出した^(注3):他のものと併せて中央値を採用した^(※1):階段図から読み取った年代^(※2):暦年較正にはCalib7を使用した^(※3):他のものと併せて中央値を採用した^(※4):文獻中にDRE換算されている値^(※5):層厚面積から読み取った値^(※6):層厚の平均値を用いた場合^(※7):上層が既存の年代で規定、▲上下層が未決定^(※8):古文書解析、近代観測、○未調査年代で文獻をもとに規定、■^(※9):文獻の層年代が層厚と矛盾する場合、Calib7で校正して算出した^(注4):DRE換算は火砕流:1.2g/cm³(溶結:1.6),

降下火砕物:1.5g/cm³, 成層火山:1.9g/cm³,

溶岩:2.5g/cm³を用いた(Umeda et al. 2013)

^(注4):DRE換算は火砕流:1.2g/cm³(溶結:1.6),

降下火砕物:1.5g/cm³, 成層火山:1.9g/cm³,

溶岩:2.5g/cm³を用いた(Umeda et al. 2013)

第10-2表(1) 活動履歴帳票(北海道駒ヶ岳火山)

データベース(DB)等による年代・信頼度										
【年代】0.03Ma~現在(AD2000) 【体積】13.8km ³										
引用DB 日本の火山(http://gbank.gsj.jp/volcano/)										
【年代】西來ほか編(2014), 中野ほか編(2013)										
【体積】第四紀火山カタログ委員会編(1999)										
10. 北海道駒ヶ岳火山										
噴火史の概略			主要参考文献 吉本ほか(2008), 勝井ほか(1989)							
活動期	細分・別称	噴出物	マグマ種類	噴火様式	年代	根拠	引用信頼度	体積(注) DRE(km ³)	根拠	
IV期		2000~2001年噴火	一	水蒸気噴火: 降下火碎物	AD2000	古文書解析, 順序	*1 ◎	-	-	
		1998年噴火	一	水蒸気噴火: 降下火碎物	AD1998	古文書解析, 順序	*1 ◎	-	-	
		1996年噴火	一	水蒸気噴火: 降下火碎物	AD1996	古文書解析, 順序	*1 ◎	-	-	
		1942年発生噴出物	安山岩	マグマ水蒸気噴火: サージ, 降下火碎物	AD1942	古文書解析, 順序	*2 ◎	0.001	引用	*3 △
		Ko-a	安山岩	ブリニー式噴火: 路下軽石, 火碎流	AD1929	古文書解析, 順序	*2 ◎	0.2 0.52	引用	*2 △
		Ko-c1	安山岩	ブリニー式噴火: 路下軽石, 火碎流, 溶岩ドーム	AD1856	古文書解析, 順序	*2 ◎	0.1 0.21	引用	*2 △
		Ko-c2	安山岩	ブリニー式噴火: 路下軽石, 火碎流	AD1694	古文書解析, 順序	*4 ◎	0.1 0.36	引用	*2 △
		クルミ坂岩屑なだれ -Ko-d	安山岩	山体崩壊: 岩屑なだれ -ブリニー式噴火: 路下軽石, 火碎流, サージ	AD1640	古文書解析, 順序	*2 ◎	/ 2.9	根拠未記載	*3 △
休止期										
III期	Ko-f	安山岩	ブリニー式噴火: 降下軽石・火碎流	6300calyBP	¹⁴ C年代	*6 ◎	>0.3 0.15	分布面積, 層厚の比較 分布面積と層厚から算出(陸上)	*3 *9 △	
	P1	安山岩	火碎流	5.740±130yBP 5.640±70yBP 6300-6500calyBP	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代(P2との重複範囲)	*3 *3 *3	△ △ <0.05	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	P2	安山岩	火碎流	5.440±70yBP 5.470±110yBP 6300-6500calyBP	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代(P1との重複範囲)	*3 *3 *3	△ △ <0.05	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	Ko-g	安山岩	ブリニー式噴火: 降下軽石・火碎流	5.970±110yBP 6800calyBP 6.130±120yBP 6800-7000calyBP 6500-6600calyBP	¹⁴ C年代	*3 *3 *2 *6 *7	◎ ◎ ◎ △ ◎	13.8 ※1 (火碎流考慮, 陸上)	*3 *7 ○	
休止期										
II期	P3	安山岩	火碎流	10.960±210yBP 12.8calka	¹⁴ C年代	*3 ◎	<0.05	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	P4	安山岩	火碎流	12.5~13Ka 14.8calka	堆積速度外挿	*3+8 *3	● <0.05	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	P5	安山岩	ブリニー式噴火: 降下火碎物	12.230±60yBP以前 13.110±60yBP以前	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代	*3 *3	◎ ◎>0.3	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	P6	安山岩	ブリニー式噴火: 降下火碎物	14.860±70yBP 14.820±60yBP 17.7calka	¹⁴ C年代 ¹⁴ C年代 ¹⁴ C内挿	*3 *3 *3	◎ ◎<0.03	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	P7	(玄武岩質) 安山岩	ブリニー式噴火: 降下火碎物	24.450±170yBP以降 19calka	¹⁴ C年代 ¹⁴ C内挿	*3 *3	◎ ◎>0.3	分布面積, 層厚の比較	*3 ○	
	Ko-h1	不明	ブリニー式噴火: 岩屑なだれ, -駒ヶ岳岩屑なだれ	降下軽石, 火碎流 -降下軽石, 火碎流	17.030±270yBP 20calka	¹⁴ C年代 引用(¹⁴ C)	*2 ◎ *3 ◎	>0.3 0.8	分布面積, 層厚の比較 分布面積と層厚から算出(陸上)	*3 *9 ○
	Ko-h2	不明								△
休止期										
I期	Ko-i	(玄武岩質) 安山岩	ブリニー式噴火: 岩屑なだれ	33.660±470yBP 39calka	¹⁴ C年代 引用(¹⁴ C)	*9 ◎ *3 ◎	>0.3 >1	引用, 層厚の比較 層厚の比較	*3 *9 ○	
	沼原岩屑なだれ(NJD)	-	岩屑なだれ	不明	-	-	-	放射年代: ◎: 取扱付論文, ○: 講演要旨等, △: 層厚と予測, 試料・測定に疑問, 根拠未記載	△	
	P8	不明	ブリニー式噴火: 降下火碎物	不明	-	-	-	堆積速度の内挿, 時間間隔を均等分配, 层厚: ●: 上下層が放射年代で対応, ▲: 上下層が未対応	○	
	松屋崎岩屑なだれ(MTD)	-	松屋崎岩屑なだれ	不明	-	-	-	●: 上下層が放射年代で対応, ▲: 上下層が未対応	○	
	剣ヶ峰溶岩 駒ヶ岳溶岩 妙原岳アグルチート	安山岩	溶岩流, 降下火碎物	不明	-	-	-	古文書解説, 近代観測: ◎	△	

引用文献
*1: 中川光弘, 野上健治, 石保吉浩, 吉本充宏, 高橋良, 石井英一, 江草匡倫, 宮村淳一, 志賀透, 岡崎紀俊, 石丸聰(2001): 北海道駒ヶ岳, 2000年の小噴火とその意義: 噴出物と火山灰付着成分の時間変化から見たマグマ活動発化の証拠, 火山, 46, pp. 295~304.
*2: 勝井義雄, 鈴木健夫, 曾經龍興, 吉久樹樹(1989): 北海道駒ヶ岳火山地質図, 地質調査所, 火山地質図5, 1sheet.
*3: 吉本充宏, 宮坂瑞穂, 高橋良, 中川光弘, 吉田邦夫(2000): 北海道駒ヶ岳火山, 先歴史時代噴火活動の再検討, 地質学雑誌, 114, pp. 336~347.
*4: 古川竜太, 吉本充宏(2006): 山脈新太郎, 和田恵治, 宇井忠英(1997): 北海道駒ヶ岳火山は1694年に噴火したか? - 北海道における17~18世紀の噴火年代の再検討-, 火山, 42, pp. 269~279.
*5: 吉本充宏, 宇井忠英(1998): 北海道駒ヶ岳が1960年の山体崩壊, 火山, 43, pp. 137~144.
*6: 奥野元, 吉本充宏, 荒井健一, 由村俊夫, 宇井忠英, 和田恵治(2000): 北海道駒ヶ岳火山, Ko-fテフラの加速度140年代, 地質学雑誌, 105, pp. 364~369.
*7: 中村有香, 平川一臣(2004): 北海道駒ヶ岳起源の広域テフラ, 駒ヶ岳gテフラの分布と噴出年代, 第四紀研究, 43, pp. 189~200.
*8: 吉本充宏, 宝田晋治, 高橋良(2007): 北海道駒ヶ岳火山の噴火履歴, 地質学雑誌, 113, pp. 81~92.
*9: 齐沢好博, 紀藤典夫, 柳井清治, 貴方昇(2005): 北海道駒ヶ岳の最初期テフラの発見と初期噴火活動史の検討, 地質学雑誌, 111, pp. 581~589.

第10-2表(2) 活動履歴帳票（北海道駒ヶ岳火山）

10. 北海道駒ヶ岳火山

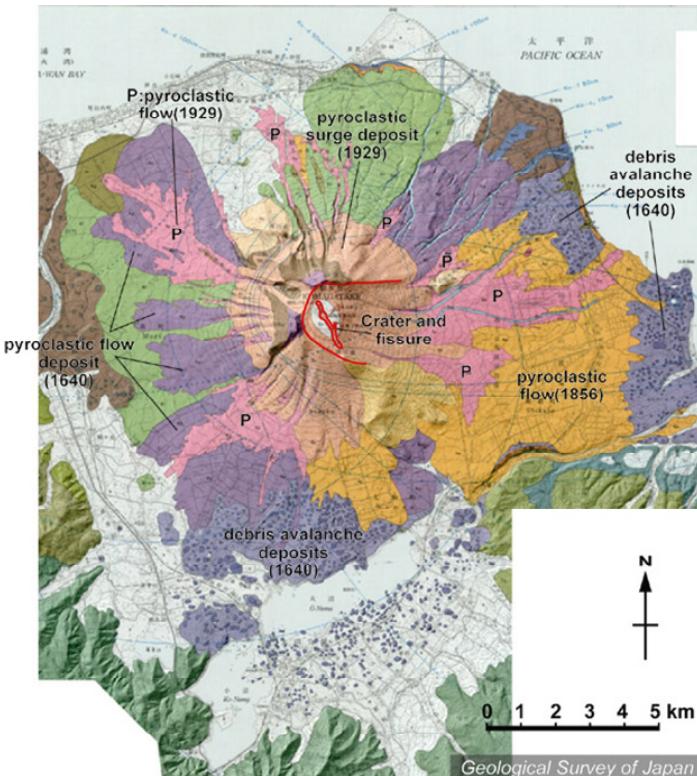


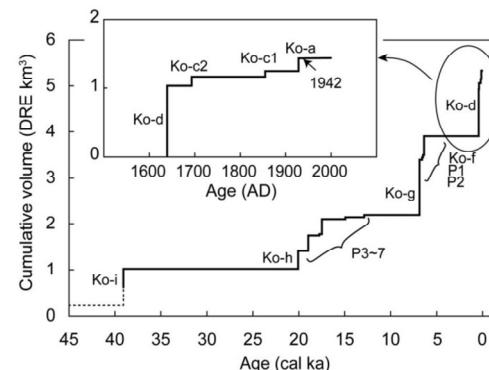
図 北海道駒ヶ岳火山周辺の地質図(産総研ホームページより)

Table 3. Revised pre-1640 A.D. eruptive history of Hokkaido-Komagatake volcano

Stage	Age	¹⁴ C Age	Deposit	Activity	Bulk Volume (km ³)	DRE Volume (km ³)
Stage IV Historic	1942 AD		1942	pyroclastic fall / surge	0.002-0.003*	0.001
	1929 AD		Ko-a	plinian fall / pyroclastic flow	0.52**	0.2
	1856 AD		Ko-c1	plinian fall / pyroclastic flow / lava dome	0.21**	0.1
	1694 AD		Ko-c2	plinian fall / pyroclastic flow	0.36**	0.1
	1640 AD		Ko-d	plinian fall / pyroclastic flow, sector collapse	2.9***	1
Stage III	6.3 cal ka	5.5 ka ^a	Ko-f	plinian fall / pyroclastic flow	> 1	> 0.3
	6.5-6.3 cal ka	5.7-5.5 ka	P1	pyroclastic flow	< 0.1	< 0.05
	6.5-6.3 cal ka	5.7-5.5 ka	P2	pyroclastic flow	< 0.1	< 0.05
	6.8 cal ka	6 ka	Ko-g	plinian fall / pyroclastic flow	2-4**	> 1
Stage II	12.8 cal ka	11 ka	P3	pyroclastic flow	< 0.1	< 0.05
	14.8 cal ka		P4	pyroclastic flow	< 0.1	< 0.05
	17.4 cal ka		P5	plinian fall	> 1	> 0.3
	17.7 cal ka		P6	plinian fall	< 0.1	< 0.03
	19 cal ka		P7	plinian fall	> 1	> 0.3
	20 cal ka	17 ka**	Ko-h	plinian fall / pyroclastic flow	> 1	> 0.3
Stage I	39 cal ka	33.6 ka***	Ko-i	plinian fall / pyroclastic flow	> 1***	> 0.3
	?	?	NJD	sector collapse		
	?	?	P8	plinian fall		
	?	?	MTD	sector collapse		
	?	?	Kengamine lava, Sawaradake agglutinate	lava flow and pyroclastic fall		

* Kastui et al. (1975), ** Kastui et al. (1989), *** Yoshimoto and Ueda (1998), ^aOkuno et al. (1999),
Nakamura and Hirakawa (2004), * Ganzawa et al. (2005)

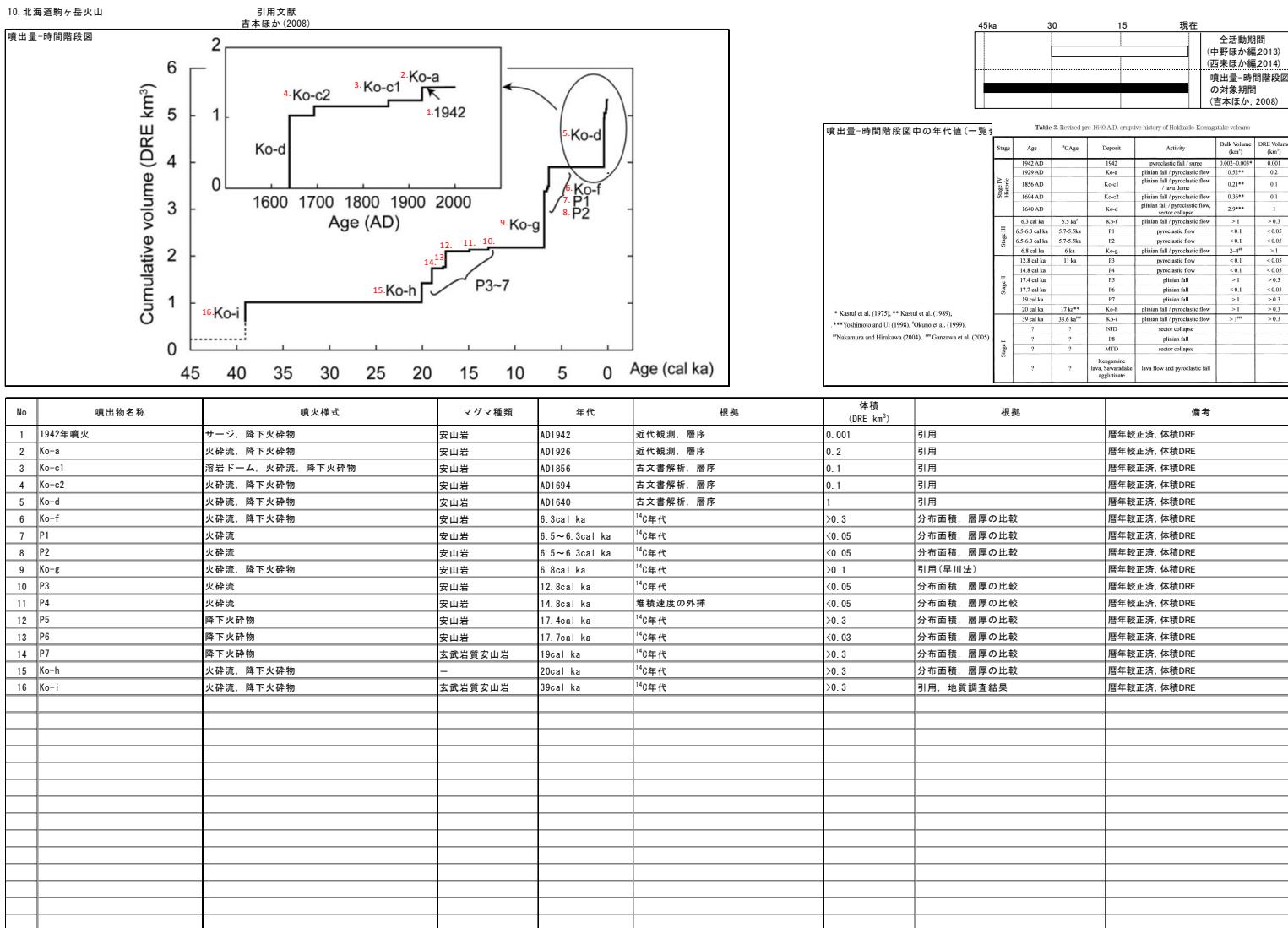
図 北海道駒ヶ岳火山の噴火履歴(吉本ほか, 2008)



左図 北海道駒ヶ岳火山周辺の噴出量-時間階段図
(吉本ほか, 2008)

Fig. 6. Cumulative volume versus eruption age for Hokkaido-Komagatake volcano during last 40 cal ka.

第10-3表 既存文献における噴出量-時間階段図（北海道駒ヶ岳火山）



第10-4表 収集文献リスト（北海道駒ヶ岳火山）

10 北海道駒ヶ岳火山

No	著者	発行年	題名	雑誌名	記載事項の有無									備考	
					噴出量-時間 履歴図	噴出量 (体積)	方法	活動 年代	方法	層序	噴出物 分布	噴火 様式	マグマ 特性	その他	
10-a	勝井義雄、鈴木建夫、曾屋龍典、吉久康樹	1989	北海道駒ヶ岳火山地質図	火山地質図5	×	○	c	○	D	○	○	○	○	-	
10-b	勝井義雄、中川光弘、岡田弘	2007	最も活動的な5火山 1. 北海道駒ヶ岳	北海道の活火山	○(●)	○	c	○	D	○	○	○	×	-	約3万年前以新
10-c	奥野充、吉本充宏、荒井健一、中村俊夫、宇井忠英、和田恵治	1999	北海道駒ヶ岳火山、Ko-fテフラの加速器14C年代	地質学雑誌	×	×	-	○	A (¹⁴ C)	○	×	×	×	-	
10-d	花岡正光	1992	渡島半島南部の完新世火山灰層序 -特に駒ヶ岳火山灰e層(Ko-e)の対比について-	北海道地理	×	×	-	○	A (¹⁴ C)	○	○	×	×	-	
10-e	吉本充宏、宇井忠英	1998	北海道駒ヶ岳火山1640年の山体崩壊	火山	×	○	c	○	D	○	○	○	×	-	
10-f	吉本充宏、今浩哉	2011	北海道駒ヶ岳火山の噴火層序の再検討： 新しい噴火堆植物の発見とその意義、その2	日本地質学会 講演要旨集	×	×	-	×	-	○	×	○	×	-	
10-g	吉本充宏、高橋良、中川光弘、宮坂瑞穂	2004	北海道駒ヶ岳火山の噴火活動史の再検討	日本火山学会 講演予稿集	×	×	-	○	A, B, C (¹⁴ C)	○	×	○	×	-	
10-h	吉本充宏、宝田晋治、高橋良	2007	北海道駒ヶ岳火山の噴火履歴	地質学雑誌	○(●)	○	c	○	D	○	○	○	×	-	4万年前以新
10-i	吉本充宏、宮坂瑞穂、高橋良、中川光弘、吉田邦夫	2008	北海道駒ヶ岳火山、先歴時代噴火活動史の再検討	地質学雑誌	○(●)	○	a, c	○	A (¹⁴ C)	○	○	○	○	-	4万年前以新
10-j	古川毒太、吉本充宏、山縣耕太郎、和田恵治、宇井忠英	1997	北海道駒ヶ岳火山は1694年に噴火したか？	火山	×	×	-	○	B, D	○	○	○	○	-	
10-k	高橋良、中川光弘、中西清、吉本充宏	2004	北海道駒ヶ岳1942年噴火はマグマ水蒸気噴火だった	火山	×	○	c	○	E	○	○	○	○	-	
10-l	国府谷盛明、松井公平、小林武彦	1967	5万分の1地質図幅「鹿部」および同説明書	5万分の1地質図幅 北海道開発庁	×	×	-	×	-	○	○	○	○	-	
10-m	中川光弘、野上健治、石塚吉浩、吉本充宏、高橋良、石井英一、江草匡倫、宮村淳一、志賀透、岡崎紀俊、石丸聰	2001	北海道駒ヶ岳、2000年の小噴火とその異議：噴出物と火山灰付着性成分の時間変化から見たマグマ活動活性化の証拠	火山	×	○	c	○	E	○	○	○	×	-	
10-n	中村有吾、平川一臣	2004	北海道駒ヶ岳起源のテフラ、駒ヶ岳gテフラの分布と噴出年代	第四紀研究	×	○	a	○	A, B, C (¹⁴ C)	○	○	○	○	-	
10-o	宝田晋治、吉本充宏	1998	北海道駒ヶ岳火山 噴火湾の暴れん坊の謎をさぐる	北海道の火山-フィールドガイド 日本の火山3	×	×	-	○	F	○	○	○	×	-	
10-p	樋澤好博、紀藤典夫、柳井清治、貞方昇	2005	北海道駒ヶ岳の最初期テフラの発見と初期噴火活動の検討	地質学雑誌	×	○	c	○	A, D (¹⁴ C)	○	○	○	×	-	
10-q	第四紀火山カタログ委員会	1999	第四紀火山カタログ		×	○	e	○	D	○	○	○	○	-	

◎:記載あり(最高)

○:記載あり

():噴出量の対象

●:降下火砕物

■:溶岩流

▲:山体一括

a:地質調査

b:地質図等

c:引用

d:その他

e:不明

A:放射年代

B:層序

C:古文書記載

D:引用

E:その他

F:不明